

第1回ほっと・ぼらんていあ報告書

6月20日（土）18:00～20:00

テーマ「夢に向かって一緒に走ろう！」

今年度第1回目となるほっと・ぼらんていあは、メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンから事務局の大野さんをお招きいたしました。メイク・ア・ウィッシュは世界中で活動しているボランティア団体で、難病の子どもたちの夢を叶えるお手伝いをしています。そしてその日本支部がメイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンです。今回は大野さんにメイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン（MAWJ）とボランティアについてお話ししていただきました。

MAWJはたくさんの子どもの夢を叶えるお手伝いをしてきました。ほっと・ぼらんていあ当日にも2277番目の夢が叶いました。それは、ねこバスに乗りたいという夢で、ジブリスタジオに協力していただき実現することができたようです。

「2277個の夢があれば、2277通りの想い、ストーリー、小さな奇跡、ドラマ、愛があります。しかし、2277人には共通していることがあり、それは『笑顔に溢れている』ということです。」と大野さんはおっしゃいました。MAWJの活動報告誌を見ても、当日流したDVDを見ても、大野さんのお話でも、どの子どもも満面の笑顔を見せていました。笑う表情がつかれない子ども、なにかしらの反応を見せてくれたことでしょう。夢が叶った時には、痛いはずの体を動かしてみたり、たくさんお話しできたりなど、いつもとは違う反応が見られるようです。どんな子どもも、嬉しい時にはその時自分ができる精一杯の感情表現をしようと思うので、それを見逃さないようにしたいと感じました。

メイク・ア・ウィッシュはよく、今にも死にそうで可哀想な難病の子どもに最後の思い出をつくってあげる団体だと言われるそうです。しかし、決してそのような団体ではないと大野さんはお話しました。夢は叶えてあげるものではなく、子どもたちが自分で自然と持つものです。メイク・ア・ウィッシュはあくまでそのお手伝いをする団体です。そして子どもたちの最後の思い出でもありません。夢を叶えることができた子どもたちは、それで終わりなのではなく、また次の夢を見つけるそうです。しかも次の夢は自分で叶えるんだという意気込みつきです。

その例として、筋ジストロフィーの和馬くんを紹介していただきました。筋ジストロフィーは、全身の筋肉が萎縮し、20歳前後で亡くなってしまいう可能性が高い病気です。和馬くんの夢は阪神タイガースの赤星選手に会う事でした。赤星選手に会うために、和馬くんは甲子園までの3.3キロの道のりを車いすで走りました。途中で長い坂もありましたが、大勢の人の応援を受けながらなんとかたどり着くことができました。赤星選手に会うことが出来た和馬くんは、病気が治ったら二人で一緒に走ろうという約束をしました。和馬くんは夢を叶えてからこういうことを言っていました。「ぼくはこの病気のおかげで神様からたくさんのたからものをもらいました。それは友達やたくさんの仲間です。病気は早く治ってほしいけど、筋ジスはぼくのトロフィーです！」

「病気はその子自身が闘うしかないけど、一人だけでは闘えない、みんなで一緒に闘おうとする気持

ちが大事」と大野さんはおっしゃいました。

急性リンパ性白血病になったみおちゃんには、絵本をかきたいという夢がありました。イラストレーターやスタッフさんが何回も打合せを重ね、その夢の実現に協力しました。みおちゃんの容態の悪化を考え、絵本の製作は急ピッチで進みました。絵本の試し刷りを見たみおちゃんは「うわぁ、すごい！」と感激していました。残念ながら絵本の発売は間に合いませんでしたが、出版された絵本は全国の小児病院に送られました。

絵本のストーリーはみおちゃんが考え、作画もしています。動物が仲間と一緒に助け合いながらたからものを見つけに行く、というストーリーですが、最終的にみつけた宝箱の中には何も入っていませんでした。そこで動物たちは、自分たちが今まで乗り越えた試練や育んだ絆がたからものだったんだ、ということに気づきます。

みおちゃんがかいた絵本には、「つらいのは一人じゃない、みんなで一緒に頑張ろう」というメッセージが込められています。難病の子どもは自分のことだけでなく、友達、家族、周りの人、会ったことのない世界各国の難病の子どもまでも気遣っていたりします。それを考えると、自分の事で精いっぱいだ、と最近思っていた自分がなんだか小さい人間に思えてしまいました。

DVDの最後に、パパと結婚式を挙げたいという夢を叶えた、もえみちゃんのビデオを見せていただきました。このビデオはもえみちゃんとパパの結婚式の写真のスライドショーになっていて、ディズニーのBGMが流れていました。4分ほどのビデオでしたが、感涙するかたも多く、見終わった後は会場が言葉では表せないようなあたたかい雰囲気となりました。

「10万人に1人の病気になった子が1人いたら、その子のおかげで残りの9万9999人は元気でいられる。9万9999人が自分で夢を叶えられるとしたら、自分だけで夢を叶えることのできない1人のために9万9999人が手助けしてほしい。」この大野さんの言葉がとても印象的でした。

当日は、MAWJのグッズ販売も行われました。Tシャツ、ファイル、ビーズストラップ、ポストカード等たくさんのグッズがありました。ポストカードやTシャツには、子どもたちが描いたカラフルな絵が使われていて、見ているだけで元気になりました。大野さんの著書には、その場で大野さんがサインを書いてくださいました。グッズの売り上げはMAWJの活動資金となります。

大野さんからは、他にもたくさんの夢を叶えた子どもたちのお話と、勇気づけられる言葉をいただきました。当日はみなさんのおかげで最後まであたたかい雰囲気ですべてを終えることができました。大野さん、参加していただいた方々ありがとうございました。

次回のほっと・ぼらんていあは9月13日（土）を予定しております。お時間のあるかた、一度足を運んでみてください。